

有限会社 久間田石油店



エネルギー転換対応による経営の多角化と
薪割り機・木材チップ加工機で付加価値の創出

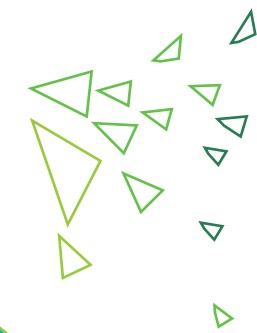
所在地 三重県鈴鹿市下大久保町1999-5
取締役 伊藤 裕之
資本金 300万円
従業員 2名
URL <https://kumaseki-suzuka.com/>

企業沿革

- 昭和40年に個人事業の『久間田石油店』として創業
- 昭和54年に法人化
長年の主力事業である燃料油配達事業は、灯油・軽油・重油をミニローリーで卸小売を行う。
- 令和7年3月下旬～
『木々の伐採・管理業』を立ち上げ

新事業の

『木々の伐採・管理業』を立ち上げたきっかけ



強み

- 燃料油の長期固定客
- 新事業に対する燃料の相乗効果
- 息子が木の伐採に必要な資格を多数所持



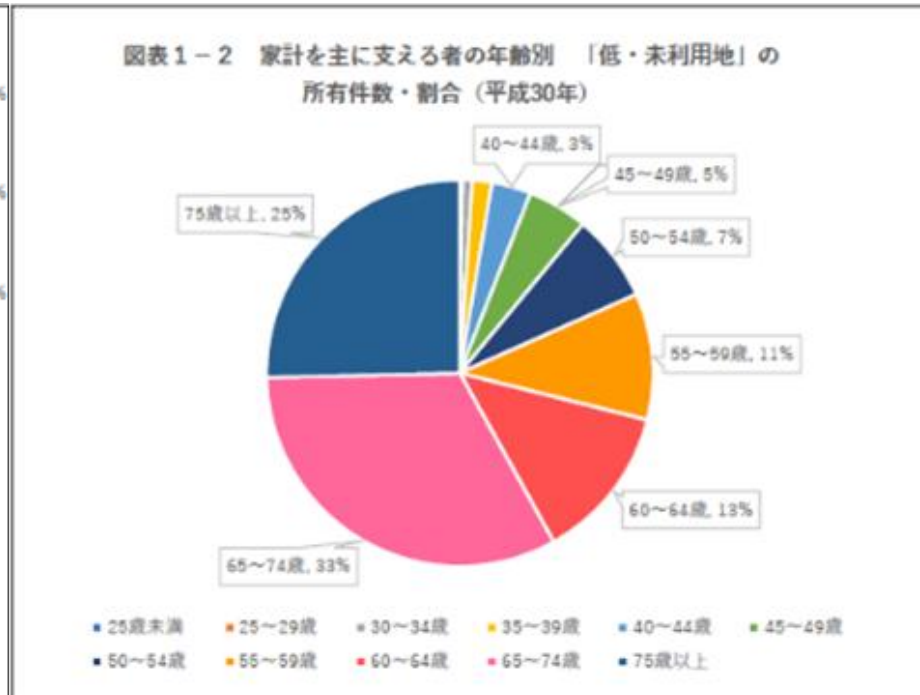
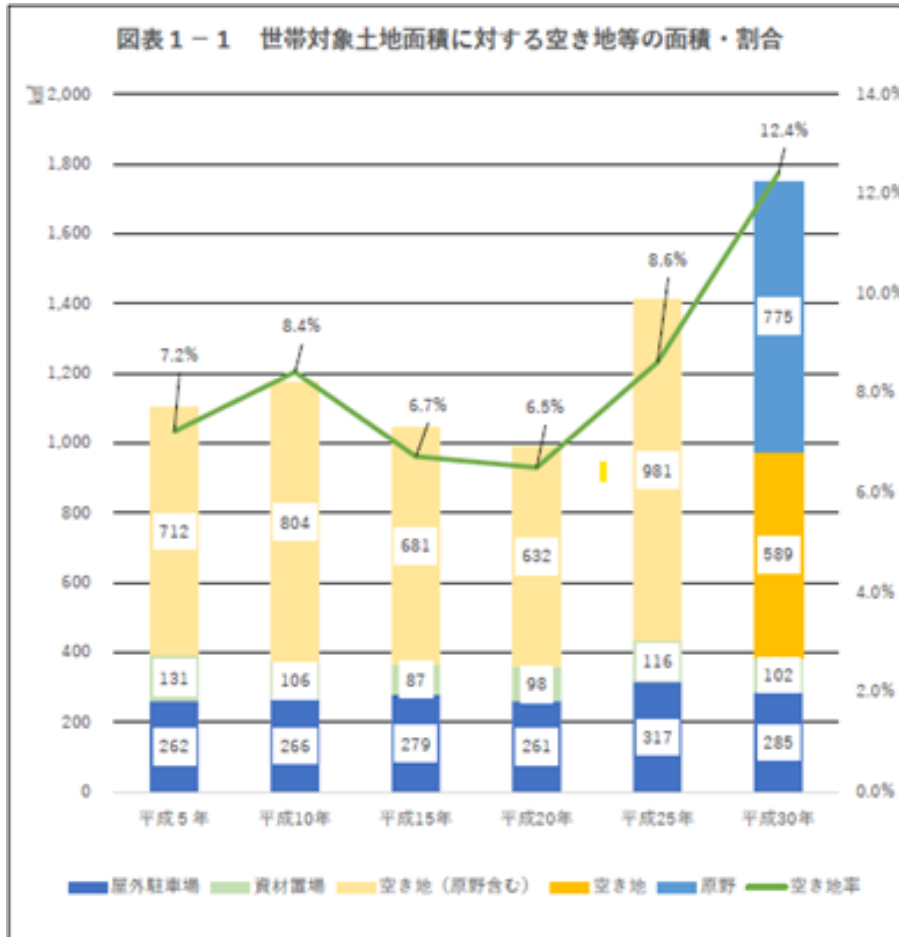
機会

- 燃料油配達事業の既存顧客からは、空き地等の管理需要が寄せられている
- 新事業はもちろん、燃料油配達業も含めて、息子の事業承継の意思あり

強みと機会を活かして、新事業を立ち上げた

市場動向と顧客ニーズ

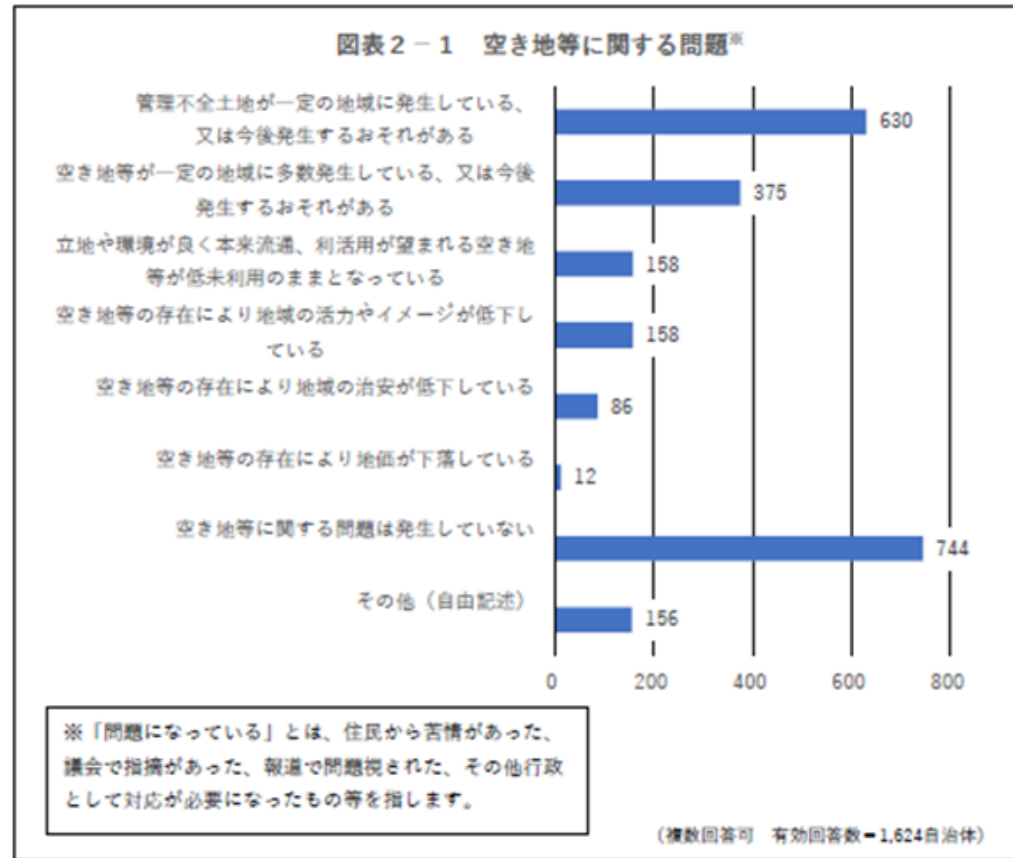
【前提】近年のエネルギー価格の高騰、電気・ガスへのエネルギー転換の加速、そして全体的な燃料油の需要減退という事業環境の変化に直面し、経営の多角化を余儀なくされている



空き地の適正管理及び利活用に関するガイドライン (令和7年4月国土交通省)より

平成20年から10年間で空き地面積は2倍以上に増加し、その約6割を65歳以上の高齢者が保有している。

市場動向と顧客ニーズ



空き地の適正管理及び利活用に関するガイドライン
(令和7年4月国土交通省)より

空き地所有者の多くはトラブル発生後に対応を検討しがちであるものの、実際には「管理方法不明」「遠方在住」「高齢による困難」「依頼先不明」といった**トラブル発生前の潜在的な管理需要が多数存在する。**

市町村も空き地の草木繁茂や越境を主要な問題としており、管理不全の空き家や空き地への対策は地域社会の課題である。この状況から、年々空き地の管理、特に草木の伐採需要は高まると予想される。

取り組み内容



木々の 伐採・管理

燃料油配達事業の閑散期の
遊休時間と既存の設備
(小型バックホー、3tトラック、
チェーンソー)、安価に仕入
られる燃料油を相乗的に
活用



薪・チップの 加工販売

処分に要していた手間
と費用を大幅に削減し、
スペース効率も向上。
また、加工により用途に
応じた付加価値が生ま
れ、商品として販売が
可能



既存顧客への 販促活動

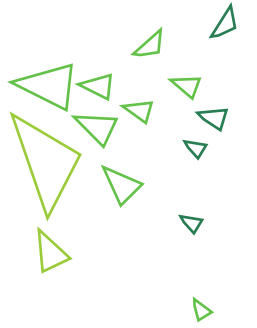
燃料油配達事業の 既
存顧客や既に伐採依
頼を受けた顧客へ、声
掛けや名刺を直接手
渡しして紹介を促す



粒状チップ



粉状チップ



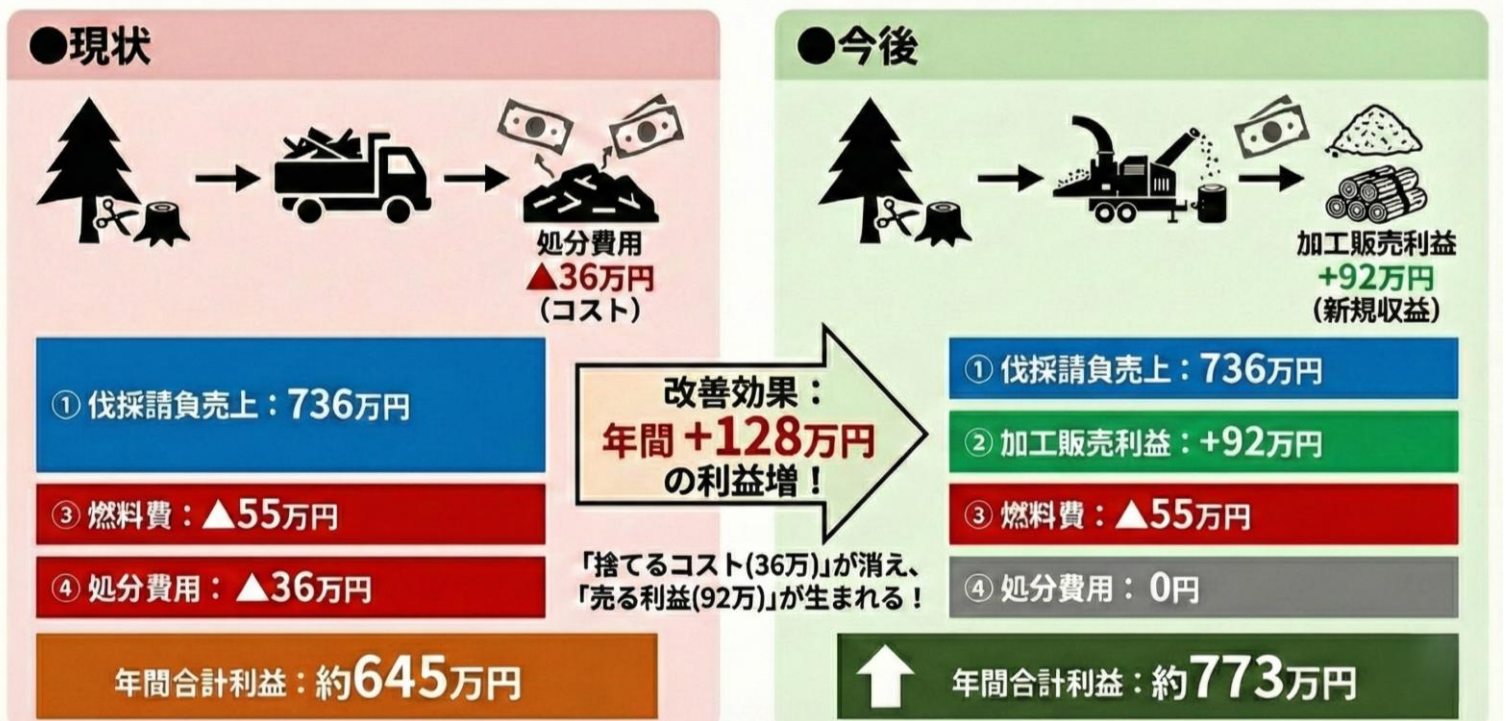
高さ5~7mの木1本を処分まで含めて40,000円で
請け負う場合、週休2日で年間8ヶ月稼働、
1日1本の伐採で年間184日の稼働を想定すると、

年間売上は約736万円 (40,000円/本×184日) を予定

+ 加えて...

処分費用の36万円がなくなり、加工販売することで
92万円 (5,000円×184本) の利益が生まれる。

木材チップ



取り組みの
結果と展望

取り組み結果

スペース効率の向上

薪割り機と木材チップ加工機械の導入により、未処理の伐採木をそのまま放置せず速やかにチップ化・薪化することで、保管に必要なスペースが従来の約3分の1程度に圧縮され、敷地内の有効活用による生産性の向上につながった。



取り組んだメリット



経営計画の作成が、迷いのない確かな判断を下すための土台となった。



次代を担う息子と共に、経営計画を形にすることができた。普段の会話では及ばない踏み込んだ議論を通じて、私たちが目指すべき事業の解像度がぐっと高まった。

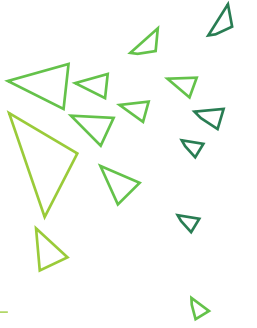


これまで処分していた手間と費用を大幅に削減でき、伐採作業と加工を連携させることで付加価値が生まれ、単なる廃棄物ではなく商品として販売が可能となった。

地域への貢献



地域の空き地の草木繁茂や越境問題について、トラブルになる前に新事業で管理不全の空き家や空き地への対策を行い、地域社会の安全性向上に努める。



今後取り組む方へのメッセージ

経営向上計画は自分の想いを整理し、進むべき足元を照らしてくれる心強い手段になります。

商工会議所や専門家は、これまで数多くの事例を見てこられた経験があります。

自分だけで考えていると行き詰まってしまうますが、対話を通じて『**こういう切り口もあるのでは？**』と視点を変えてもらうだけで、気づきを得られました。

ひとりで抱え込まず、あらゆる力を借りて二人三脚で進むことこそが、経営向上への一番の近道だと感じています。

取締役 伊藤 裕之

支援商工団体担当からのコメント

私の前職と同じ燃料関係の仕事ということもあり、令和6年の6月より、緊密な連携を取りながら伴走支援をしてまいりました。

お会いした当初から構想にありました新事業「木々の伐採・管理」について

『**三重県版経営向上計画**』の策定を通じて整理し事業化を行うことが出来ました。

収益面のみならず社会的な意義も深い本事業のさらなる成長を、確信しております。今後とも緊密な連携のもと、微力ながら継続的な支援に尽力させていただきます。



鈴鹿商工会議所
経営支援員 小池佑樹